

アイシンの未来を創る

技術開発本部 副本部長

青木甲次

Koji Aoki



我々の生活環境は、新型コロナウイルスによってこの一年で大きく様変わりし、これまでと異なる生活様式への転換を余儀なくされてきました。

そんなコロナ禍での明るいニュースの一つとして、はやぶさ2が小惑星リュウグウから砂の持ち帰りに成功しました。採取された微量な砂からは太陽系の成り立ちの解明に繋がる様々な証拠が詰まっているとされ、初代はやぶさに次いで世界的な快挙であります。この分野では、日本がトップランナーであり、高い技術力が評価されています。成功の裏には、携わった人々の弛まない努力と、強固なチームワークがあったことは容易に想像でき、学ぶべき事も多くあると思います。

さて現状の企業活動に目を向けてみますと、経営環境が急速に変化し、それに対応できなければ生き残ることができない厳しい状況となっています。

生き残るためには、これまでの既成概念を捨て、勇気をもって変化に対して能動的に取り組んでいく必要があります。技術開発ではデジタル技術によって、ラボや製造現場ではAIやロボットの活用が当たり前となり、開発期間の短縮、省人化、生産効率向上が進められています。さらに、テレワークの導入で仕事のやり方も急激に変化しています。

いわゆるこれら不連続な変化は、コロナウイルスが加速させた一面はあるものの、必然的な変化であると考えています。これをチャンスと捉え、立ち止まらず新たな進化を目指して挑戦し続けなければなりません。

産業界においては、政府が表明した2050年カーボンニュートラルの活動やSDGsに関する取り組みなどが企業を評価する指標として取り上げられ、世界規模で価値観が変わってきています。地球温暖化や資源問題、エネルギー問題、ゴミ問題にも対応すべく3R（リサイクル/リユース/リデュース）に配慮した製品開発が必須となっています。

地球はたった一つ。そして世界は繋がっています。私達自身そして子や孫の将来のため、持続可能な社会の実現に向けて、私達一人一人がSDGsの達成に貢献していかなければなりません。私達には部品メーカーとして世界を牽引してきた実績があり、グループ会社を含めた幅広い領域での経験は、SDGsやモビリティ社会の構築にも活かせると信じております。本技報の特集記事に、我々のSDGsへの取り組みを紹介していますので、目を通して頂ければ幸いです。

次に自動車業界においては、大変革期を迎え、国内において2030年にはガソリンエンジンの新車販売が禁止されるなど、CASE対応と地球環境保護を両立させる取り組みが必要不可欠となっています。モビリティ社会が、HV・EV・FCVへシフトする中で、業界では、まさに生き残りを賭けた研究開発が進められています。

このようにクルマを取り巻く環境は、急激に変わってきています。自動車メーカーのみならず、IT・電機・通信・エネルギーなど異業種からの新規参入もあり、その競争は激化していることは皆様もご承知の通りです。

この変化に対して、我々は、これまでの幅広い領域で培った技術力と実績を活かし、地球環境と調和を図りながら製品開発に取り組みつつ、さらには、これまで技術蓄積のない部分へも踏み込んでいく必要が生じると考えられます。

それには我々が未来を創造し、必要な技術を先回りして開発していかなければなりません。我々の技術とイノベーションで世界に届けたい。環境性能だけでなく運転や移動のうれしさを提供する製品で、明るく活気あふれる社会づくりに貢献したい。未来のモビリティ社会は、私達が切り拓くという熱い思いを胸に挑戦を続けなければなりません。

最後に新生アイシンについて触れておきます。今年2021年の4月にアイシン精機とアイシン・エイ・ダブリュが合併し、「株式会社アイシン」として生まれ変わります。

自動車業界におけるEV化や自動運転への流れの中で、両社が持つ技術や製品の融合によって、より魅力あるモビリティ部品メーカーとして新たにスタートします。

新生アイシンでは、“We Touch the Future”をスローガンに、私たち一人一人が、「“移動”の自由と喜び、そして未来地球に美しさを運び続けること」を使命として取り組み、「未来に笑顔を!」を胸に邁進してまいります。

まだまだ生まれたばかりの企業ですが、今後の新生アイシンにご期待下さい。